

2020 年度実施概要

学校名

福岡県立輝翔館中等教育学校

採択活動名

SDGs からアプローチする海の命を守る取り組み～輝翔館中等教育学校における総合的な探究の時間を通して～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 総合的な探究の時間	高校2 学年	総合的な探究の時間
2.		
3.		

取り組みの概要

本校にて毎週火曜日に設定されている、総合的な探究の時間にて実施した。対象生徒は、13期生（現在高校1年生）103名である。約5～6名毎にチームを構成し、チーム毎にSDGsの14番である「海の豊かさを守ろう」に沿った具体的な目標を立てた。

「海の豊かさを守ろう」というSDGsの目標に基づき、海とそれに繋がる河川を調査研究した。海については、大牟田市付近の有明海にて、環境調査を行った。河川は本校から歩いてすぐの所を流れる一級河川である矢部川を調査した。

有明海と玄界灘環境調査では、マイクロプラスチックゴミがどれくらいあるのか？を目的に50cm四方の区画から表層7cmの砂をサンプリングする区画法を用いた。サンプリングした砂は、本校理科室にて、双眼実体顕微鏡や目視、水にサンプルの砂を浮かせるなどの手法で検出を試みた。他に、生物の体内にどれくらいのマイクロプラスチックが蓄積されているのかを調べるために、いくつかの種類の生物の胃の中を調べた。調査対象とした生物は、有明海産アサリ、中国産アサリ、佐賀産ウルメイワシ、長崎産カタクチイワシである。

結果、マイクロプラスチックゴミは、矢部川と有明海からはほぼ検出されず、玄界灘からは数個のマイクロプラスチックゴミが検出された。また、生体内の調査では、中国産アサリから1個体あたり2～3粒検出され、国産の生物からは、佐賀産ウルメイワシの胃の中にビニル袋が見受けられた。

これらの研究成果を令和2年7月16日（木）、中間発表会と称して校内で実施した。最終発表会は、令和2年12月1日（火）に校内最終発表会と称して、本校高校1年生と2年生に向けて発表を行った。さらに、これらの研究成果は、冊子として記録した。

有明海環境調査



矢部川環境調査



SDG s ファシリテーターの庄田清人氏を講師としてお招きし、ZOOMにて講演をして頂いた

生体内のマイクロプラスチック検出実験



発表当日の様子①

発表当日の様子②



佐賀産ウルメイワシの胃。ビニル袋が見受けられる



中国産アサリ中のマイクロプラスチックゴミ



活動中の写真

デジタルデータにて2~3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)